

報 告

リハビリテーション・ケア 合同研究大会 札幌 2012

川村義肢株式会社 げんきセンター東大阪 上田 夏子

1. はじめに

2012年10月11日～13日までの3日間、北海道札幌市にある、札幌コンベンションセンターにて、リハビリテーション・ケア合同研究大会2012が開催された。

今回、私は初めてこの大会に参加し発表したが、全国から集まった他職種の研究発表を聴講し、見聞きしてきた事を報告する。

2. 大会概要

表題の通りであるが、全国で活躍されているリハビリテーション・ケア関連職種が、リハビリテーション・ケアの質の向上を目的とし、研究・取り組みを行ってきた事を発表し、情報共有する大会として毎年行われている。

主な参加職種として、看護師・理学療法士・作業療法士・ケアマネジャー・介護福祉士・福祉用具専門相談員・義肢装具士など、他職種がそれぞれの現場の状況を発表していく。発表方法は、スライドセッションとポスターセッションがある。

また、特別講演・シンポジウムも多数行われた。

今回の大会テーマは、『新しい医療介護福祉の連携をめざして- 助けよう繋げようリハケアの輪 -』であり、団塊の世代が後期高齢者になる2025年、社会保障と税の一体改革実現を見据え、「これからあるべき医療・介護の姿」を念頭に置いたテーマとなっている。急性期後のチームアプローチ・在宅医療の充実・地域包括ケアシステムの基盤整備などが、今回の研究内容でもよく見られた。

3. 大会に参加して

先にも述べたが、私はこの度初めてこの大会に参加したが、まず、参加者の多さに圧倒された。私の発表内容はポスターセッションであったが、発表時には40名を越す聴講者があった。これは特別な人数ではなく、他の発表者の周りにも、同人数の聴講者で溢れていた。

もちろんポスターセッションだけではなく、各ホールでは、スライドセッションも行われており、ホールに入室できない演題も多い。

この状況から、在宅医療に関しては、まだまだ明らかではない部分があり、それを取り巻く介護保険制度など年々変化する現状により、これから新たに確立される分野であるような印象を持った。

各職種の情報の最先端を発表し合う今大会参加者は、皆情報を取りこぼすまいと意気込み向かっている者が多かったように感じる。

4. 地域包括ケアシステム

これからの在宅医療を担うシステムとして注目されている『地域包括ケアシステム』についての演題が多数あった。

先にも述べたが、団塊の世代が後期高齢者になる2025年を見据え、より『地域での医療介護のありかた』を考え直す必要があると皆が最重要視している事がわかる。

このシステムで重要なのが、今回のテーマで出てくる「連携」である。これまで長い間ずっと言われ続けてきている事であるが、各専門職同士の連携・他職種間での連携という発表テーマが多く目立った。

特に各事業所が動く在宅医療の現場では、他事業者との連携は中々実現できていないのが現状である。また、リハビリテーション1つ取っても通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど、本来リハ

川村義肢株式会社

〒574-0064 大阪府大東市御領1-12-1

<http://www.kawamura-gishi.co.jp/>

ビリの目的をある程度共有しておかなければいけない同職種サービスで、連携が取れていない為に、利用者を混乱させてしまったという事例報告もあった。

5. まとめ

他にも様々なセッションが行われており、機器の展示も多数あった。

目新しく感じたのが、ロボットスーツの活用事例である。スーツの利用状況を急性期から回復期への引継ぎに利用する事により、回復期リハ開始の円滑化へと繋がったと事例報告があった。

今後もどんどん新しい機器が増え、より『連携』がし易くなるのではと期待するが、大事なものは、皆の意識やコミュニケーションを多く取るというマンパワーが、これからの地域医療・介護形態確立に最も必要なのではないかと、今回の大会で感じた。

1年後の大会では、これからのあるべき医療・介護の姿を垣間見られる事を期待して、私も活動していきたいと思う。



写真2 正面玄関にて



写真1 ポスター会場



写真3 ポスター会場Ⅱ